

結婚願望及び出産願望に与える要因の検討 (第1報)

Factors affecting the desires for marriage and having children (Part 1)

藤澤克彦*

Katsuhiko FUJISAWA

Abstract

The challenges of decreasing birthrates and an aging population persist in Japan. A drop in the marriage rate has been proposed as a cause of the decline in the number of children. Further, this drop has been associated with the desire for marriage. This study explores the factors affecting the desire for marriage and desire to have children in young women to improve the decreasing birthrate. In Part 1, this report provides an overview of the participants. Among the young women who participated, 83.8% responded that they wanted to get married and wanted to be married by the age of 28.1 years. However, there is a gap between the age of first marriage for women in 2019 (29.6 years) and young women's marriage aspirations. These findings suggest that encouraging individuals to search for a partner from a younger age may lead to an increase in the number of marriages as well as the number of children. Part 2 explores the associations between the desire for marriage and desire to have children and other items to predict factors that impact one's desire for marriage/desire to have children.

Keywords: desire for marriage, desire to have children

I 緒言

現在の日本は少子高齢化が進んでおり、その原因として出生数の減少があげられている。厚生労働省の令和元年人口動態統計結果によると、出生数は1974年には200万人を超えていたものの、それ以降減少していき2019年では90万人を下回った¹⁾。出産可能とされる15～49歳までの女性1人が一生の内に産む子供の数とされる合計特殊出生率は、1974年に2.05を記録して以降減少していき、1993年に1.5を下回って以降低水準を推移している。2017年では1.36となっている。人口増加を期待するためには合計特殊出生率を2以上にする必要があるので、今後も子どもの数が減り、少子化が進むと考えられる。内閣府は、少子化の原因に非婚化、晩婚化、晩産化を上げており²⁾、厚生労働省の人口動態統計結果から非婚化、晩婚化、晩産化は現在も進んでいることが分かる。斎藤（2012）は非婚化や晩婚化に結婚願望が影響を与えていると指摘しており³⁾、国立社会保障・人口問題研究所の第15回出生動向基本調査報告書によると、男女ともにいずれ結婚するつもりと回答している者が減少傾向に、一生結婚するつもりはないと回答している者が増加にある⁴⁾。これらのことから結婚願望に関する調査や結婚願望に及ぼす要因について多くの報告がみられる³⁾⁵⁾。

本研究では、少子化の改善を目的として結婚願望及び出産願望に与える要因を検討する。特に、若年女性の興味をもつ分野、食に関する意識や食環境が結婚願望及び出産願望に影響を与えているか検討する。今回は、第1報として対象者の全体像を報告し、要因分析の結果は第2報で報告する。

II 方法

1. 対象

2018年10月時点に関西圏にあるK女子大学の看護師養成過程及び管理栄養士養成課程に在籍する1

*くらしき作陽大学 食文化学部 栄養学科 Department of Dietetics, Faculty of Food Culture, Kurashiki Sakuyo University

年生女子の内、本調査に同意の得られた148名（平均年齢 18.6 ± 0.50 ）を対象とした。

2. 調査方法

調査は質問紙を用いて行い、全て自己記入方式とした。質問項目は、①身体認識、②食事量の認識、③結婚願望及び出産願望に関する意識を問うものとした。身体認識の把握にはContour Drawing Rating Scale（身体画像尺度）を用いた。Contour Drawing Rating Scale（身体画像尺度）は、ThompsonとGrayが開発した身体画像⁶⁾を用いた尺度であり、身体画像を痩せから等間隔に肥満にしていき男女それぞれ9つの身体画像を示すものである（図1）。本研究では、この尺度を用いて被験者に4つの質問を行い、その質問項目に該当する被験者の体型を得た。質問内容は、a) 今現在の自分自身の体型、b) こうありたいと思う理想の自分自身の体型、c) これ以上は痩せすぎと思う自分自身の体型、d) これ以上は太りすぎと思う自分自身の体型の4項目である。これら4つの質問項目より表1に示す因子を得た。得られた回答は図1の通りやせ型から順に1点から9点としてデータ処理を行った。

質問紙調査の実施前には、対象者に質問用紙を配布すると共に口頭で研究の説明を行い、同意の得られた者のみから質問用紙を回収した。質問用紙には個人の情報を特定できる項目はなく、答えたくないあるいは答えにくい質問については未回答を可として回答を求めた。

本報告では全体像を把握することを目的としているため統計解析は行っていない。

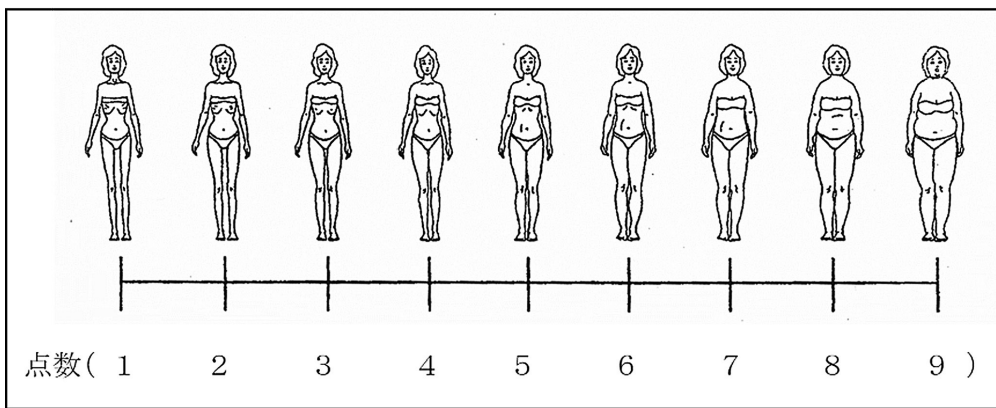


図1 Contour Drawing Rating Scale（身体画像尺度）

表1 Contour Drawing Rating Scale（身体画像尺度）より得られる因子

現体型	身体画像尺度の間a
理想体型	身体画像尺度の間b
痩せ過ぎ体型	身体画像尺度の間c
太り過ぎ体型	身体画像尺度の間d
理想体型とのずれ	「理想体型」－「現体型」
現在と痩せ過ぎの差	「現体型」－「痩せ過ぎ体型」
現在と太り過ぎとの差	「太り過ぎ体型」－「現体型」
理想と痩せ過ぎの差	「理想体型」－「痩せ過ぎ体型」
理想と太り過ぎの差	「太り過ぎ体型」－「理想体型」
体型許容範囲	「太り過ぎ体型」－「痩せ過ぎ体型」
やせ願望	あり : 「理想体型」 < 「現体型」 なし : 「現体型」 ≤ 「理想体型」

Ⅲ 結果

身体認識では、「痩せ願望」のある者がほとんどであった（表2）。また、「現在と痩せ過ぎの差」と「現在と太り過ぎの差」では痩せ過ぎとの差が大きくなっているのに対して、「理想と痩せ過ぎの差」と「理想と太り過ぎの差」では痩せ過ぎとの差が小さくなっていた。

食事量の認識では、日々の食事量が適切だと感じている者が88人（59.5%）と最も多く、次いで48人（32.4%）の者が多い方だと感じ、9人（6.1%）が少ない方だと感じていた（表3）。しかし、日々の野菜摂取量に関しては、104人（70.3%）が足りないと感じており、しっかり摂れていると感じている者は42人（28.4%）となっており、足りないと感じている者の3分の1程度となっていた。

結婚・出産に関する意識では、約75%の者が結婚・出産に対して良いイメージを持っており、約25%の者がイメージは特にないと答えていた。結婚願望、出産願望共に悪いイメージを持っていたのは約5%であった。結婚願望については124人（83.8%）があると答えており、23人（15.5%）がないと答えていた。出産願望については結婚願望と同程度の結果であった。いつまでに結婚及び出産したいかという問いに対しては、平均で結婚が28.1歳まで、出産は29.3歳までと回答があった。

表2 身体認識（データの揃っている対象者のみ）

	全体 (n=139)	看護師 養成課程 (n=69)	管理栄養士 養成課程 (n=70)
現体型	5.5 ± 1.28	5.6 ± 1.26	5.4 ± 1.31
理想体型	3.7 ± 1.05	3.7 ± 1.17	3.6 ± 0.93
痩せ過ぎ体型	2.0 ± 0.78	2.0 ± 0.85	2.0 ± 0.70
太り過ぎ体型	7.0 ± 1.07	7.2 ± 1.08	6.8 ± 1.04
理想体型とのずれ	-1.8 ± 0.88	-1.9 ± 1.07	-1.7 ± 1.26
現在と痩せ過ぎの差	3.5 ± 1.35	3.6 ± 1.31	3.4 ± 1.39
現在と太り過ぎとの差	1.5 ± 1.21	1.6 ± 0.93	1.5 ± 1.43
理想と痩せ過ぎの差	1.7 ± 0.88	1.7 ± 0.98	1.7 ± 0.77
理想と太り過ぎの差	3.3 ± 1.02	3.5 ± 0.95	3.2 ± 1.07
体型許容範囲	5.0 ± 1.25	5.2 ± 1.25	4.9 ± 1.24
痩せ願望(あり/なし)(人)	130/9	64/5	66/4

表3 食事量の認識

	全体	看護師 養成課程	管理栄養士 養成課程
日々の食事量(人) (適切だと思う / 多い方だと思う / 少ない方だと思う / 未回答)	88 / 48 / 9 / 3	38 / 27 / 6 / 3	50 / 21 / 3 / 0
日々の野菜量(人) (しっかり摂れていると思う / 足りないと思う / 未回答)	42 / 104 / 1	17 / 56 / 1	26 / 48 / 0

表4 結婚・出産に関する意識

	全体	看護師 養成課程	管理栄養士 養成課程
結婚に対するイメージ(人) (良い / 悪い / 特にない / その他 / 未回答)	97 / 10 / 37 / 4 / 0	44 / 7 / 21 / 2 / 0	53 / 3 / 16 / 2 / 0
結婚願望はありますか(人) (はい / いいえ / 未回答)	124 / 23 / 1	61 / 13 / 0	63 / 10 / 1
何歳までに結婚したいですか(歳)	28.1 ± 2.93 (n = 122)	28.3 ± 2.91 (n = 60)	27.9 ± 2.96 (n = 62)
婚活開始から結婚の間どのくらい時間がかかると 思いますか(年)	2.8 ± 1.57 (n = 122)	2.6 ± 1.59 (n = 59)	2.9 ± 1.54 (n = 63)
出産に対するイメージ(人) (良い / 悪い / 特にない / その他 / 未回答)	101 / 5 / 38 / 3 / 1	47 / 3 / 24 / 0 / 0	54 / 2 / 14 / 3 / 1
子どもを出産したいですか(人) (はい / いいえ / 未回答)	117 / 22 / 9	59 / 12 / 3	58 / 10 / 6
何歳までに出産したいですか(歳)	29.3 ± 2.90 (n = 113)	29.3 ± 2.84 (n = 58)	29.4 ± 2.98 (n = 55)
結婚から出産の間どのくらい時間がかかると思 いますか(年)	1.7 ± 1.00 (n = 123)	1.6 ± 0.91 (n = 60)	1.8 ± 1.09 (n = 63)

IV 考察

結婚・出産に関する意識では、結婚・出産に対して悪いイメージを持っている者が約5%であり、結婚・出産願望がない者(約15%)より少なかった。結婚・出産に対して悪いイメージを持っていなくても結婚・出産をしたくないと考えている者が10%程度いることになり、この対象の結婚・出産に対するイメージを変えることができると、結婚・出産願望の改善につながると考えられる。結婚願望については83.8%があると答えており、15.5%がないと答えていた。この結果はこれまでに報告されてきた結果³⁾⁵⁾と同程度であった。本研究では、28.1歳までに結婚したいという結果であったが、令和元年の人口動態統計結果では2019年の女性の初婚年齢は29.6歳となっており¹⁾、1.5年の開きがある。また、第15回出生動向基本調査報告書には結婚の年齢が上昇するほど一家族当たりの子の出生数が少なくなると記載されている。これらのことから比較的若年の内から婚活を行うよう推進することは、婚姻数並びに出産数の増加につながるのではないかと考えられる。

結婚願望・出産願望とは異なるが、身体の認識では「痩せ願望」のある者がほとんどであり、これは数多く報告されている同世代を対象とした研究⁷⁾と同様の結果であった。痩せが良くないと言われ始めてしばらくたつが、若年女性の痩せ願望には改善がみられず、厚生労働省の平成30年国民健康・栄養の結果でも20代女性の痩せが依然高い水準を維持している⁸⁾。また、身体の認識として「現在と痩せ過ぎの差」と「現在と太り過ぎの差」では痩せ過ぎとの差が大きくなっているのに対して「理想と痩せ過ぎの差」と「理想と太り過ぎの差」では痩せ過ぎとの差が小さくなっていったことから、現在はこれ以上太るのは良くないものの痩せることに対しては寛容であり、理想の体型が痩せ過ぎと感じる体型に近いと認識しながらそこに近づけたいと考えていることが分かる。これらのことは健康的に痩せることとは異なり、歪んだ痩せ願望であることを示していると考えられる。

食事量の認識では、日々の食事量が適切だと感じている者が最も多く、次いで多い方だと感じている者が多く、少ないと感じている者はほとんどいなかった。しかし、若年女性では痩せが多くなっており、対象者の認識と事実は異なっていると考えられる。

今後は結婚願望・出産願望とその他の項目との関連を検討することで結婚願望・出産願望に影響を与える要因を推定し、第2報で報告する。

参考文献

- 1) 厚生労働省：令和元年人口動態統計結果
<https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/jinkou/kakutei19/index.html>（2020年11月7日）
- 2) 内閣府：「選択する未来」委員会報告
<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/index.html>（2020年11月7日）
- 3) 斎藤嘉孝：定位家族の親夫婦の関係性が若者の結婚への態度に与える影響：大学生を対象とした量的調査の結果より，法政大学キャリアデザイン学部紀要，9，369-379（2012）
- 4) 国立社会保障・人口問題研究所：第15回出生動向基本調査報告書
http://www.ipss.go.jp/ps-doukou/j/doukou15/doukou15_gaiyo.asp（2020年11月7日）
- 5) 森香織，桂田恵美子：両親の夫婦関係が子供の結婚願望に及ぼす影響について：両親の結婚生活コミットメント及び夫婦仲に注目して，関西学院大学心理科学研究，43，25-32（2017）
- 6) Thompson MA, and Gray JJ. : Development and Validation of a New Body-Image Assessment Scale. *Journal of Personality Assessment*, 64(2), 258-269 (1995)
- 7) 藤澤克彦：若年女性の痩せおよび痩せ願望改善のための栄養教育法の提案，岡山学院大学・岡山短期大学紀要，34，25-33（2011）
- 8) 厚生労働省：平成30年国民健康・栄養調査報告
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/kenkou/eiyuu/h30-houkoku_00001.html（2020年11月7日）

